

## 当社の環境への取り組み

### 当社の開発理念「Vertical Garden City—垂直の庭園都市」

当社は「Vertical Garden City—垂直の庭園都市」というコンセプトのもと、「環境と緑」を街づくりにおけるミッションのひとつに掲げ、ヒートアイランド現象の緩和、景観の美化といった都心の環境問題の解決に貢献する緑化環境の形成に努めてきました。平面的に過密化した都心において土地を高度利用することで生まれたオープンスペースや建物の屋上を積極的に緑化し、都市と自然の共生を目指した街づくりに取り組んでいます。



垂直の庭園都市を実現したアークヒルズ



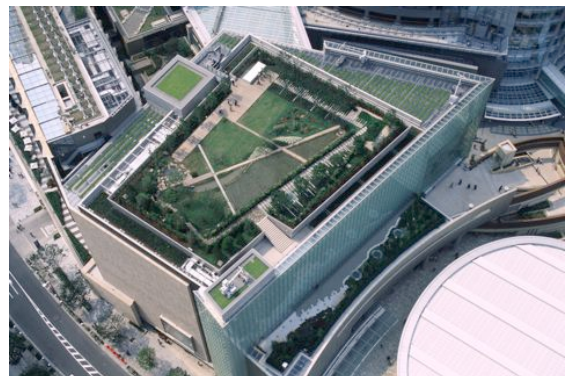
六本木ヒルズの毛利庭園



愛宕グリーンヒルズ



アークヒルズの屋上庭園



六本木ヒルズの屋上庭園

## 開発によって生まれる緑

当社では、今から30年以上前の昭和40年代から「緑と光の豊かな街づくりを。」というスローガンを掲げ、都市緑化に積極的に取り組んでまいりました。中でもサントリーホールの屋上を庭園化したアークヒルズは、都心における屋上緑化のさきがけとなり、以降のプロジェクトにおいても開発を通じた緑の創生に努めています。例えば、六本木ヒルズでは、開発前と比較して約1haの新たな緑地が生まれるなど、主要施設の開発を通じて創出された緑地面積は、5.3haにも及びます。(下表参照)

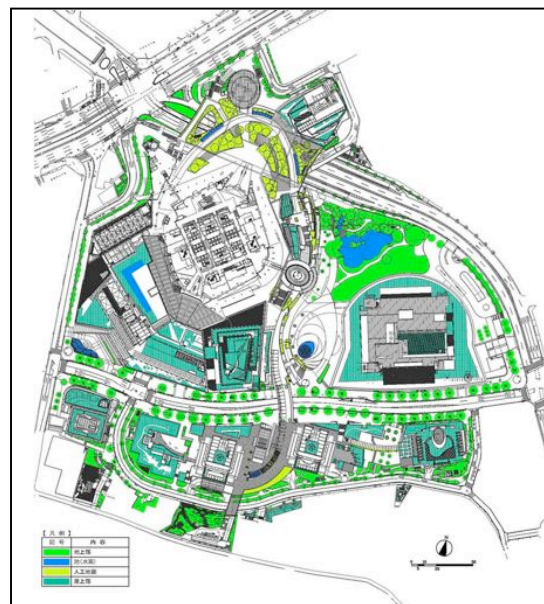
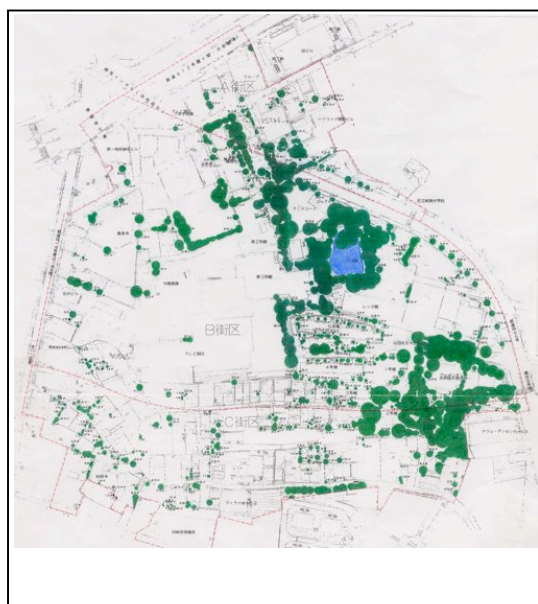
## 当社主要施設緑化面積一覧

名称	竣工	面積		緑被面積(m <sup>2</sup> )	緑被率	備考
		敷地面積(m <sup>2</sup> )	建築面積(m <sup>2</sup> )			
アークヒルズ	1986年	41,186	22,853	8,780	21.30%	サントリーホールの屋上庭園を含む7つの庭園「アークガーデン」や全長700mに及ぶ桜並木が都心における豊かな緑化環境を実現。野鳥の飛来に代表される生物相の回復も見られる。
愛宕グリーンヒルズ	2001年	38,452	10,677	11,882	30.00%	愛宕山の緑を保全しながら公園を整備し、江戸時代の植生を生かした緑化計画を実施。愛宕山、青松寺、オフィスと住宅のツインタワーすべてが緑でつながっている。
赤坂溜池タワー	2000年	5,733	1,922	1,732	30.20%	地上100mにあるルーフガーデンは、オフィステナントや居住者の憩いの空間として利用されている。「キッチンガーデン」をテーマに、オリーブやブドウ棚など実をつける植物を多く配置。
元麻布ヒルズ	2002年	12,308	3,676	5,960	48.40%	「都市そのものが森であるべきだ」というコンセプトのもと、敷地の約半分を緑化。接地レベルの緑化に加え、コケを使った「モスインネット」による屋上緑化やバルコニー緑化を実施。
六本木ヒルズ	2003年	84,779	57,000	21,920	25.80%	開発を通して68,000に及ぶ樹木を植え、約1haの緑地を創生。劇場棟屋上の庭園に設けられた水田や、再整備された日本庭園など多様なグリーンスペースが広がる。
オランダヒルズ	2005年	3,545	2,347	897	25.00%	「香り」をテーマにしたガーデン。ラベンダー・クレマチスといった香りを楽しむ草木を配する。隣接するオランダ大使館の緑と一体となり、いずれは豊かな緑のネットワークとなる予定。
表参道ヒルズ	2006年	6,051	5,030	1,845	30.00%	「歴史の継承」をテーマに、建物の高さを表参道のケヤキ並木が臨める程度に抑え、既存の緑との調和を図りながらの屋上緑化を推進。あわせて壁面緑化も実施している。
計				53,016		

## 六本木ヒルズ開発前後の緑地分布図

開発前の緑地面積：**1.65ha**

開発後の緑地面積：**2.56ha**  
(公共用地分を含む)



## 都心で育まれる豊かな自然環境

アークヒルズでは、継続的な維持管理によって成熟した緑化環境を形成しています。特に、施設外周に植えられた約 150 本、全長 700mにもおよぶソメイヨシノは、毎年約 10 万人が訪れる都心の桜の名所となっています。



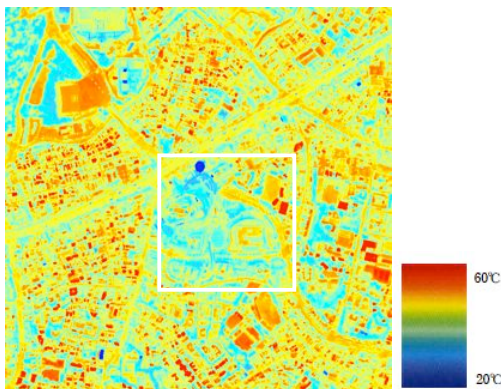
20年の歳月を経たアークヒルズ外周の桜並木

また、国土交通省によって実施された鳥類の出現とその利用状況に関する調査（2003年実施）では、アークヒルズの庭園「アークガーデン」が比較調査の対象地に選定されました。アークガーデンでは、庭園への実のなる樹木の導入や、巣箱の設置など野鳥が訪れやすい環境作りをしています。調査の結果、キジバト、コゲラ、ヒヨドリなど13種類の野鳥が訪れていることが観測され、環境を整備することで、都心における生物相の回復が実現していることが認められました。さらにアークヒルズでは、アークヒルズ生まれの蟬や冬眠する蛙、野鳥が種子を運び実生した樹木が見られるなど、都心にありながら、成熟した豊かな自然を感じることができます。

## ヒートアイランド現象緩和への貢献

大規模な緑地を確保することで、都心におけるヒートアイランド現象の緩和に貢献しています。六本木ヒルズを対象とした国土交通省による熱環境計測調査（2004年実施）では、緑化された空間は周辺のアスファルト塗装の表面温度に比べ、日中で $5^{\circ}\text{C}\sim 15^{\circ}\text{C}$ 低くなっていることが分かりました。また六本木ヒルズ上空から撮影した熱画像からも周辺地域よりも明らかに温度が低くなっており、緑化の効果が現れていることが観測できます。

### 六本木ヒルズ含む周辺 $1\text{km}^2$ の熱画像と実写真（2004年7月22日12時撮影）



（資料協力：J-POWER 電源開発株式会社）

## 緑を通じたコミュニティ形成への寄与

当社では、都市緑化の推進を通して、都心におけるコミュニティ形成にも寄与しています。アークヒルズでは、1997年に市民参加型のコミュニティ団体「アークガーデニングクラブ」を結成しました。クラブは約100名で構成され、月2、3回の土曜日に専任ガーデナーの指導のもとガーデニング活動に参加する他、自主的にガーデンの管理、運営もしています。2005年4月には「六本木ヒルズガーデニングクラブ」が発足、今年4月には、2つのガーデニングクラブを統合した「ヒルズガーデニングクラブ」が発足し、さらなる都市緑化活動に取り組んでいく予定です。また、アークヒルズでは通常非公開のルーフガーデンの一般公開やローズフェスティバル、六本木ヒルズでは屋上の水田を利用した田植えや稲刈りなど、緑を利用したイベントを開催し地域の賑わいに貢献したり、地域にお住まいの方々が緑に触れて楽しむコミュニティの場を提供しています。



アークガーデニングクラブ活動風景



六本木ヒルズ・屋上水田での田植えの様子

### (参考)これまで当社が受けた環境関連の表彰一覧

年度	名 称	主催団体
2002年度	緑の都市賞「国土交通大臣賞」	財団法人 都市緑化基金
2005/2006年度	SEGES（社会・環境貢献緑地評価システム）緑の都市賞 STAGE3	財団法人 都市緑化基金
2006年度	道の日「道路功労者建設局長」	国土交通省
2006年度	Energy Globe Award	Energy Globe（オーストリア民間団体）
2007年度	SEGES（社会・環境貢献緑地評価システム）緑の都市賞 Excellent Stage 3	財団法人 都市緑化基金
2007年度	道の日「道路功労者 国土交通大臣表彰」	国土交通省